

## 近隣の自然の変化に目を向ける No. 66

早春の雪； 季節は確実に変化している

Early spring snow; the seasons are definitely changing

1/6の初雪から約1ヶ月後の2/10、天気予報通り東京は南岸低気圧による雪が降った。前日の予報では10cm近くの積雪となると警告されていたものの実際には、午後遅く間のみぞれで、夕刻から雪が地を白く染め始め、翌朝起きた時は止んでいて積雪は2cm程であった。そこでいつもの通り妻を車椅子に乗せ、芦花公園でのラジオ体操に出かけた。

公園内は部分的に薄雪で化粧されたような景色で静かな美しさに包まれていた。

体操している目の前に見える芦花恒春園（100年前に徳富蘆花が暮らしていた家屋）は雪で白く覆われ、いつもと違うたたずまいに思えた。園内を散策していると白い花が咲いていると思えたので近づいてみると、葉に残った雪であった。クヌギ林の北側は全面が薄雪で覆われた広場では、犬が主人の引く紐を引き寄せ遊びたげであった。

新春から咲き出していた紅梅が今満開で、雪面の上に咲いている姿が優美であった。

その翌朝(2/12)、雪はすっかり消え気温は氷点下であった。花の丘の地面には霜柱ができ、寒さに強い三色すみれは霜に覆われても健気に耐えていた。そして驚いたことに、ホトケノザ（仏の座＝仏の台座に使われる開いたハスの花の形に似ている）がもう咲き始め、レンテンローズ（キリスト教会暦でレント＜受難節＝キリストが十字架に死に、3日目に復活した日の40日前間を覚えて祈り続ける期間＞に咲く美しい花）も咲き始めていた。オタフクナンテン（お多福南天＜難転＞＝難を転じ多くの福に恵まれるという民間の縁起かつぎ

）。暗く寒く厳しい冬を耐えた者に明るく温かな春が近づいている事を告げる草花に出会えたようだ。

暦の上でも、すでに節分が過ぎ、春がすでに足下まで来ている事を知らせている。